

### 虐待予防検討会アセスメントシート

ID	氏名	生年月日	乳児健診来所日
住所			
<b>&lt;虐待要因&gt;</b>		<b>&lt;家族状況&gt;</b>	
I ( ) / 166点			
II ( ) / 13点			
III ( ) / 30点			
IV ( ) / 102点			
V ( ) / 59点			
合計 ( ) / 374点			
<b>&lt;検討会の意見&gt;</b> (子育てアンケートや虐待要因一覧表に表現されない事実の確認や気付きを中心に)			
<b>&lt;アセスメント&gt;</b>			
<b>&lt;援助短期目標&gt; (母が当面クリアできたらよい内容・具体的な目標を書く。)</b>			
<b>&lt;援助内容&gt; (該当するものにしる。( ) に記入する。)</b> <input type="checkbox"/> 虐待対応 <input type="checkbox"/> 家族機能介入 <input type="checkbox"/> 産後うつ他精神科対応 ( ) <input type="checkbox"/> 親性育成 <input type="checkbox"/> 問題整理・家族診断 <input type="checkbox"/> 育児スキル提供 <input type="checkbox"/> 気持ちの受容(個別・集団) <input type="checkbox"/> 児の健康問題 <input type="checkbox"/> 社会資源(育児相談・育児教室・一時保育・児童館プログラム)の紹介 <input type="checkbox"/> 社会資源の活用を確認 情報提供( ) <input type="checkbox"/> MCG <input type="checkbox"/> その他( )			
<b>&lt;援助方法&gt;</b>			
◎ 訪問	必要性	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	時期( ) 備考( )
○ その他	必要性	<input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし	時期( ) 備考( )
<b>&lt;次回検討&gt;</b> 必要性 <input type="checkbox"/> あり <input type="checkbox"/> なし 時期( )ヶ月後( 年 月 日)			

### 最優先される援助区分の考え方

最優先された援助区分	定義
虐待対応	家庭内に暴力環境がすでに存在している場合や発言等から今後、虐待が起こっても不思議ではないと判断されるような場合。
親のメンタル支援	出産をきっかけに母のメンタル的な問題が浮上した場合やこれまでに精神的問題があった場合。
家族機能介入	無計画な借金等の経済問題や夫婦不仲等の家族の関係性にゆがみが生じていると思われる場合。若年夫婦などの場合で、祖父母等との調整を図りながら、生活設計を支えていくことが必要な場合。
子どもの健康問題	子どもの発育や発達の問題があり、経過を確認していく必要がある場合。
見守り	母が気持ちを語ることで心の落ち着きを取り戻せるが、当面は個別対応がよいと判断される場合。集団場面に参加することで問題解決が可能と考えられる場合。根本に重大なトラウマ等はなさそうだが、子どもの発達段階で、その都度悩んでしまう場合。地域資源の活用で、改善が予測できるが、母が行動化しづらいため、地域資源を活用した後の状況を確認する必要がある場合。

## 南多摩方式の実施効果

南多摩方式を行った場合、期待される効果として、以下の5点があげられます。

- 1 健診における情報を用いることで、要支援家庭を定量的に判断することができます。(視点の共通化を図ることができる)
- 2 健診の場面を活用することにより、援助者の観察による判断も加えて支援を検討することができます。(定量的な方法だけに頼らない)
- 3 実施により援助者の観察力やアセスメント力の向上が図られます。
- 4 支援計画に基づいて家族への支援を行う結果、社会資源の活用や関係機関との連携など幅広い活動につなげることができます。
- 5 家族への支援を積み重ね、地域の子育て支援について評価し見直しを行うなど、新たな事業や資源の開発へと発展させることができます。